

バンコク便り



1. はじめに

先月10月よりカシコン銀行ジャパンデスクトレーニーとして当行は初めてタイバンコクへ行員1名を派遣しました。現在ジャパンデスクには当行含め全国地銀22行から総勢28名のトレーニーが派遣されています。地方でも海外市場や現地進出を求めることが身近になりつつあり、またそうした動きが、タイバンコクを含めアジア全体に広がりつつある状況を現地目線でお伝えするため、バンコク便りを創刊することになりました。

今回はタイバンコクの概要と現況、加えて11月3日開催されたビジネスマッチングについてご紹介します。

タイ及び首都バンコク概要について

- ・面積：タイの面積は513,115 km²（日本の国土面積の約1.4倍）
- ・人口：タイ人口は6,598万人、バンコク人口は830万人（人口センサス:2010年9月時点）
- ・気候：タイの大部分が熱帯モンスーン気候地域で平均気温は約29℃、湿度は平均70~80%。バンコクの季節は6月から10月にかけての蒸し暑く雨の降る雨季、11月から2月のやや涼しく過ごし易い乾季、そして3月から5月にかけて雨があまり降らず非常に高温となる暑期の3つに分かれます。タイでソンクラーン（水掛祭り）が開催される4月が最も暑く、4月の平均気温は35℃にもなります。

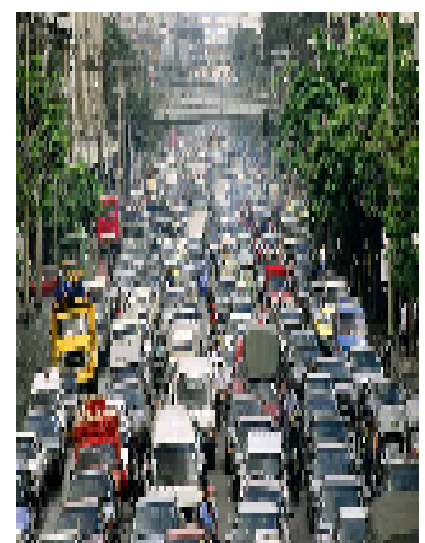
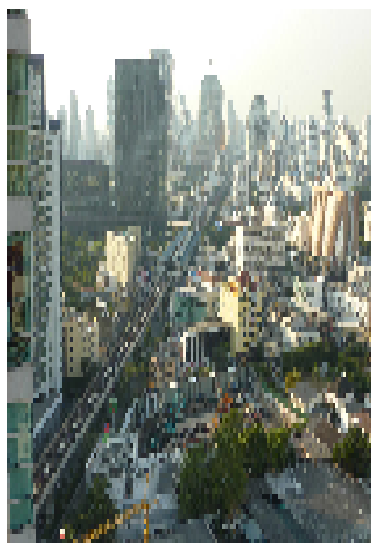
※首都「バンコク」という名称は主に外国人が用いる総称。正式名称は以下。

クルンテープ・マハーナコーン・アモーンラッタナコーシン・マヒンタラーユッタヤー・マハーディロック・ポップ・ノッパラット・ラーチャタニーブリーロム・ウドムラーチャニウエートマハーサターン・アモーンピマーン・アワターンサティット・サッカタッティヤウィサヌカムプラシット

◆正式名称の意味

イン神（インドラ、帝釈天）がウィッサヌカム神（ヴィシュヌカルマ神）に命じてお作りになった、神が権化としてお住みになる、多くの大宮殿を持ち、九宝のように楽しい王の都、最高・偉大な地、イン神の戦争のない平和な、イン神の不滅の宝石のような、偉大な天使の都

正式名称は長すぎてタイ国民でも全部を覚えていない人も多く、正式名称の最初の部分を取り、タイ国民は「クルンテープ」と言っています。



タイ国土（写真左）、バンコク中心部の高層ビル群（写真中央）、バンコク市街地の恒常的渋滞の様子（写真右）

バンコクの現況

今年2月にデモが発生し、バンコク首都圏などに非常事態宣言が出されたことの影響で、7月頃までは日本人はもちろん、欧米人の観光客も激減していたとの話でしたが、8月お盆の辺りから徐々に戻り始め、現在はデモ以前まで回復しております。未だ軍による暫定政府の状況にありますが、来年10月以降に総選挙が行われる予定であり、政治的混乱もなく推移しています。日常生活においても夜間外出禁止等は既に6月頃解除されており、現在は世界中の観光客や現地駐在の外国人で大いに賑わっています。

2. 11月3日ビジネスマッチング（当行取引先4社参加）



平成26年11月3日(月)にタイ・バンコク市内において、カシコン銀行が主催する、飲食料品や飲食関連機器、日用雑貨を扱う企業を対象とした商談会「ワールドビジネスマッチング2014」が開催されました。

ASEAN経済共同体(AEC)の発足が2015年を目前に進む中で、販路開拓のニーズが強まる中、今回の商談会には日系企業の売り手70社を含む156社が参加。タイの企業を主とし、アジア各国の買い手との商談件数は合計で約300件にのぼり活況を呈しました。

当行のお客様の売り手・買い手として計4社が商談会に参加。事前にマッチングのあった商談の他、各売り手が自社商品等を展示したブースにおいても、当日来場していた他企業との情報交換や今後ビジネスに繋がるような会話が出来た等、好評を得ました。



◆バンコク宣言について

ビジネスマッチング同日、カシコン銀行は9カ国からの提携銀行35行と共に、国際取引を行う顧客向けサービスを昇格させる為にバンコク宣言 (Bangkok Declaration : ASEAN+3 Banking Initiative) を発表しました。

本宣言は銀行の商品、サービス、人材育成において相互協力を向上させていこうというものです。フィデアホールディングス（荘内銀行・北都銀行）をはじめ、タイ、中国、日本、韓国、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ベトナム、ラオスの9カ国から賛同した35行は、この宣言を通してお互いの経験を共有し、今後の銀行ビジネスの発展を目指していくこととなります。

3. タイでの赴任を通して

10月よりタイに赴任し、小職を含め新規赴任者10名が一様に感じているのは、想像以上にタイの物価が高く、現地のコンサルが言うには、バンコクの物価は東京の1.2倍程度との事です。海外赴任者の日本人が多く居住する地域には、日本食をはじめ日本の日用品から雑貨まで、殆どの物が現地調達可能です。ただし、タイローカルの製品と比較すると値段は2~4倍が平均です。

30年前のバンコクでは日本食と言えばラーメン、焼きそば、焼き鳥程度しかなかったそうですが、現在ではありとあらゆる日本食が食べられる状況で、またそのクオリティも高く、日本国内で提供されている物と殆ど変わらなくなってきています。タイ人の富裕層は昨今の日本食ブームの影響もあり、高額でも質の高いものを提供できる料理店は連日タイ人で賑わっているとの事です。

山形は美味しい物がたくさんある県ですが、海外市場を見据えた場合にはセールス方法や商品のストーリー等、アピールポイントの戦略をしっかり計画することが必要だと思われます。

【バンコク便り作成担当より】

今後も定期的にバンコク便りを発行し、ビジネスに役立つ現地情報や生活関連トピックスを発信して参ります。「記事のこの部分が気になるのもっと詳しく知りたい」や「この商品タイでビジネスチャンスはあるの？」等、どんな事でも結構です。たくさんのご意見をお待ちしております。

【本件に関する連絡先】

海外業務部 石井、軽部 023-626-9050

バンコク駐在(カシコン銀行ジャパンデスクトレーニー) 山岡 +66-(0)9-2249-1176